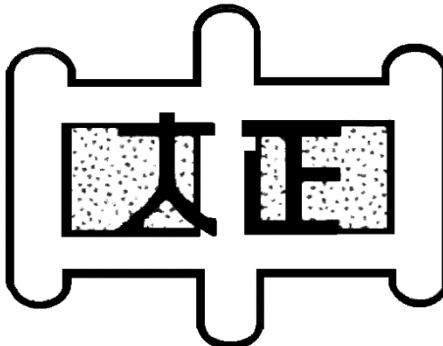


2024年度

運営に関する計画

（最終評価）



大阪市立大正中央中学校

2024年4月

2024年度 運営に関する計画

【学校経営の重点】

◇ 自分を創る ◇

— 自ら学び、鍛え、未来の造り手となる生徒の育成 —

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な教育内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “Challenge”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “Communication”
- ◇ 明るく元気な生徒 “Cheerful”

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【現状】

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート（保護者・児童）における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」（共育・響育）**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」を取り組んでいく。

（2024年度 「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」 参照）

令和5年度チャレンジテスト（+1年チャレンジテスト plus）における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※（ ）は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.86 (0.86)	0.76 (0.75)	0.76 (0.75)	0.81 (0.81)	0.72 (0.72)
2年生	0.85 (0.85)	0.87 (0.87)	0.80 (0.80)	0.83 (0.84)	0.76 (0.76)
1年生	0.87 (0.86)	0.90	0.93 (0.94)	0.99	0.87 (0.87)

平均正答率については、すべての学年で大阪市平均を下回ったが、1年生の数学、理科については、**大阪市平均に近づいた**。

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**1日当たりの家庭学習時間**」では、1時間以上と回答している生徒の割合は **（平日）3年：64.3% 2年：46.9% 1年：50.1%** と、家庭学習において課題が見られた。

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ **65.6%、63.6%** と、昨年度からほぼ横ばいである。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子の上体起こしは全国平均を超えており、男女とも立ち幅とびは大阪市平均を大きく下回っている**。

【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の読解力向上**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境**を整えていく必要がある。

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』（共に学び育む教育）『響育』（生徒の心に響く教育）**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・2025年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・2025年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和4年度～令和7年度内で前年度より減少させる。
- ・2025年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を令和4年度～令和7年度内で前年度より増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・2025年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
- ・2025年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、2022年度に対していざれの学年も0.1ポイント向上させる。
- ・2025年度の大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・2025年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・2025年度末の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・2025年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を40%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 8.3%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(前年度 20.0%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を28%以上にする。
(前年度 27.7%)
- ・年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 平日 58.0% 休日 37.6%)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における、3種目を大阪市平均以上にする。
(前年度 1種目)
- ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
→ 87.1%
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 8.3%)
→ 10.2% (24名/235名 1年:13名 16.3% 2年:3名 4.7% 3年:8名 8.8%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(前年度 20.0%)
→ 2,3年生 8.3% (1名/12名) ※1年生は5名改善している。
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
→ 96.6%
- ・年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。
→ 75.3%

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
→ 37.6%
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
→ 3年:国0.79(-0.06p) 数学:0.71(-0.09p) 2年:国0.93(+0.07p) 数0.87(-0.07p)
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を28%以上にする。
(前年度 27.7%)
→ 35.5%
- ・年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
→ 男子:62.5% 女子:26.1%
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 平日58.0% 休日37.6%)
→ 平日:60.7% 休日:50.0%
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における、3種目を大阪市平均以上にする。
(前年度 1種目)
→ 1種目(男子「上体起こし」) ※男子「反復横とび」は大阪市平均
・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
→ 89.3%

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、**生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数**が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く
→ **25.9% ※60%以上の活用率・・・76.2% (109/143)**
- ・年次有給休暇を**10日以上取得する教職員の割合**を90%以上にする。
→ **100% (29人/29人)**
- ・年度末の校内調査における、「**学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる**」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。
→ **87.5%**

本校では、保護者及び生徒アンケートを対象とした学校評価アンケート結果の分析を踏まえ、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」を策定し、教育活動の向上をめざし取り組みを進めている。今年度も「**2つのきょういく**」(『**共育**』(共に育む教育)『**響育**』(心に響く教育))をテーマに、教育活動の改善に取り組んできた。

【安全・安心な教育の推進】

- ・「いじめ事案」については、教職員が日々、子どもたちのようすを観察し、子どもとの対話を深めた生徒理解に取り組んできたことと、**毎月実施した「いじめアンケート」**や保護者や地域との連携により把握することができた。
- ・また、「**いじめ・不登校対策委員会**」を月1回開催し、各学年の事案について共通理解をするとともに、対応について検討した。その結果、**確認できたすべてのいじめの疑いのある事案について、早期に対応することができた**。しかしながら、まだ学校生活に不安を抱えている生徒も見られるため、引き続き見守りを行っていく必要がある。
- ・今年度の**不登校生徒 (年間30日欠席)**については、21名の生徒が対象として挙げられる。昨年度より開設した「**ステップ教室**」を利用する不登校生徒も増えている。引き続き不登校生徒の場所を確保するとともに、不登校改善に取り組んでいく。
- ・生徒アンケートの「**自尊感情・自己有用感**」の項目が、少しずつではあるが改善されてきた。これは、「**大正中央 Dream Project**」など、生徒の心に響く「**響育**」活動を実践していきた成果が表れてきたと考えられる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・今年度の「**全国学力・学習状況調査**」において、相変わらず全国平均を下回っている。
- ・課題であった「家庭学習時間」については、放課後学習の場所や教材を整備したことと、放課後学習の利用生徒も増加し、**1時間以上学習する生徒の割合も向上している**。
- ・今後も継続して話し合い活動を通じて深い学びにつなげる学習展開を研究していく必要がある。特に、総合の時間においては**探究学習**が求められており、グループ活動等で意見を交えながら学習していける機会を増やしていくかなければならない。
- ・生徒アンケートの結果から、本校では**体を動かすことを肯定的に捉えている生徒が多いが、男女で認識の差がはげしい**。
- ・「**全国体力・運動能力、運動習慣等調査**」の結果、**大阪市平均を超えている項目が男子で1種目**しかないことがなく、「**走**」の種目に課題がある。来年度に向けて、生徒が継続的に体を動かすことのできるような行事の計画を立てたり、多くの生徒が昼休みに運動場で体を動かせたりするような工夫をしていかなければならない。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICT 機器の活用については、校内研修を実施しながら、各教科での学習用端末の活用も進んできた。
- ・生徒の「心の天気」の入力率が学年によって差がある。
- ・教職員の働き方改革については、「働き方改革プロジェクト」で議論した課題の解消に向けて、昨年度より①校時の見直し、②職員朝礼の廃止、③完全下校時間の設定、④退勤時間の設定、⑤校務分掌表の見直し（新たに健康教育部の設置）、⑥会議・委員会の実施方法の見直し等、改革を進めてきた結果、教職員の超過勤務時間の削減に大きく取り組むことができた。また、**定時退勤申告制度**や研修会を実施することで、教職員の意識の改革も行うことができた。次年度は、**学期末懇談会の廃止**等、新たな改革に取り組んでいく。
- ・今年度は、**1年生で「チーム担任制」を実施**し、教員の業務負担の軽減について検証した。今年度の課題を改善しながら、次年度も1年生と2年生で「チーム担任制」を実施していく。
- ・保護者への連絡、学年通信等を「ミマモルメ」の連絡機能で配信することにより、ペーパーレス化が進んでいる。

大阪市立大正中央中学校 2024年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 年度末の校内調査における、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 (前年度 8.3%) 年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 (前年度 20.0%) 年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上</u>にする。 年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を60%以上</u>にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを許さない環境を作る。 不登校生徒について、いじめ・不登校対策委員会等で議論し、具体的対応策のもと、学年、生活指導部を軸とし、外部機関とも連携し組織的な対応に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「いじめは、許せないことだと思う」において、<u>最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を80.0%以上</u>にする。 年度末の校内調査において、<u>前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加</u>させる。 (前年度 20.0%) 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。 集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができる生徒を育成する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上</u>にする。 	

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施する。 	
--	--

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えことができている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 63.6%) 生徒アンケートの「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を 65.0%以上にする。 	B
--	----------

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身がかけがえのない存在であると実感できるよう、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、自尊感情、自己有用感を高める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。 生徒アンケートの「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 76.6%) 	B
--	----------

<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/7 いのち・いじめについて考える日（全学年） 5/24 いじめ予防教室（1年生） 7/4 折れない心を育てる命の授業（2年生） 7/18 情報モラル教室（3年生） など、命や人権について考える機会を設けることができている。 必要に応じてスクールカウンセラーや関係諸機関との連携など、迅速な対応に努めることができている。 スクールライフノートを活用し、いじめに関する調査を毎月行う等、日々生徒たちからの情報の収集に努めた。 結果として、生徒アンケートにおける「いじめは、許せないことだと思う」において、最も肯定的な「よくあてはまる」に回答した生徒は、前年度を4ポイント上回り、87.1%と引き上げることができた。 前年度の不登校生徒の改善割合においては、32%となり、前年度の改善度の 20.0%を 12ポイント上回った。 <p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校の指導や、テスト・懇談期間中の地域巡回など、生徒の安全と安心を守るために学校全体で生徒を見守る体制がとれている。 今年度も生徒会を中心として、「校則の見直し」を行った。 生徒アンケートにおける「学校の規則や社会のルールを守っている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」に回答した生徒は、前年度を3.9ポイント下回り 58.4%となつた。校則の改定により、教員や生徒の認識がアップデートされていない場面が多々見られた為、学校全体として、ルールについて考える、発信する時間が不足していた。 	
---	--

取組内容③④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・9/10 道徳プレ公開授業では、各教員が道徳教育に対する理解を深め、指導にあたることができた。結果として「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にするという目標に対しては、前年度から **12.7 ポイント上昇**と、大きく上回り 89.3%となつた。
- ・生徒アンケートにおける「命や人権の大切さについて考えることができている」において最も肯定的な「よくあてはまる」に回答する生徒が前年度を **7.7 ポイント上回り** 71.3%に引き上げることができた。また同様に「自分には良いところがある」に肯定的な回答をした生徒は前年度を **9.7 ポイント上回り** 75.3%に引き上げることができた。
- ・「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合は **65.2%**となり、肯定的な意見も **96.6%**と前年度を **1.8 ポイント上回った**。
- ・**自己肯定感が上がるような声かけや、生活指導案件に対する迅速な対応**により、生徒一人一人が、自分を見てもらっているという実感を持ててきている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 **徳**】

- ・いじめ事案や対人トラブル等の問題の発生を未然に防げるようにしていく必要がある。スクールライフノート「**心の天気**」を活用した日々の生徒の様子の観察や、気になる生徒に対しての声掛け、学年、学校での情報の共有を行い、トラブルを発生前に防ぐように努めていく。
- ・学校内で留まらない事案等に対しては、関係諸機関との連携を図り、迅速な問題解決に努めていく。
- ・学校がどんな生徒にとっても行きたいと思えるような居場所となるように、生徒の声に耳を傾け、安心で安全な環境づくりに努める。

取組内容②【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 **徳**】

- ・校則における指導が多かった為、生徒会による校則改定により、新たに追加・変更されたルールの浸透が十分にできていないことが要因として考えられる。教員、生徒会による発信の機会を一定期間継続するなど、**全体への十分なルールの浸透を図る期間**を設けていく。
- ・生活指導部を中心とした地域の巡回をより活性化させていき、生徒たちが地域で安心・安全に過ごすことができているかを見守っていく。

取組内容③④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・全体として、**自尊感情や自己肯定感が高まり、自分自身を大切にできている生徒が増えていく**ことから、他者との関りにも良い変化が生じていると考えられる。引き続き、道徳教育や、日々の生徒への声掛けの一つ一つを通して、自身や他者を大切に考えられる生徒の増加に努めていく。
- ・生徒と教員の信頼関係によって、指導の充実が生まれることも少なくない為、生徒にとって模範となる立ち振る舞いを、全教員が行えるように努めていく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「<u>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか</u>」に対して、<u>最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を30%以上</u>にする。 中学生チャレンジテストにおける、<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上</u>させる。 大阪市英語力調査における、<u>CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を28%以上</u>にする。 (前年度 27.7%) 年度末の校内調査における、「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。 (前年度 平日 58.0% 休日 37.6%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 <u>誰一人取り残さない学力の向上</u> 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業だけでなく、<u>文理融合的な総合的読解力育成カリキュラムを通したリベラルアーツ教育</u>なども実施して、読み取った情報の要約や考えを形成する学習を行う。 課題解決型学習の中で、<u>コミュニケーション活動</u>に取り組み、自分の考えを深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における以下の質問に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を目標値以上</u>にする。 <ul style="list-style-type: none"> ①「<u>情報を正しく読み取って、まとめることができます。また、そこから自分の考えを持つことができる</u>」 (目標値 20%以上) ②「<u>話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができます</u>」 (目標値 20%以上) ③「<u>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか</u>」 (目標値 30%以上) 	B

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 <ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動全般において、実用的な文章やトピックを取り上げ、言語活動の充実を図り、問題を読み解く読解力や教材資料に対する情報活用能力を育成する。 言語活動・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 (前年度 2年:国0.85 数0.80 1年:国0.86 数0.94) 	

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 <ul style="list-style-type: none"> 授業内の実用ワークやスキルテスト等にC-NETを効率的に活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語3技能の強化を取り組む。 目的・場面・状況に応じた実践的な学習法により、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会を増やす。 習熟度別授業を活用し、学習成果を英語表現で表す活動を通し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な強化を取り組んでいく。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 大阪市英語力調査における、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を28%以上にする。 (前年度 27.7%) 	

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 <ul style="list-style-type: none"> 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成し、提供することで、自主学習の習慣を定着させ、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「情報を正しく読み取って、まとめることができる。また、そこから自分の考えを持つことができる」の最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は28.1%、「話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができる」の最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は27.0%、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は37.6%と、すべて目標を達成することができた。各教科だけでなく、総合的読解力育成カリキュラムや探究学習を実施することで、自分の考えを深めたりする学習の機会が増えたことが目標の達成に繋がったと考えられる。 	

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・令和6年度の「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の大阪府平均との差について、3年生は（国語：0.85→0.79、数学：0.80→0.71）、2年生は（国語：0.86→0.93、数学：0.94→0.87）となった。
- ・**夏季休業期間中における自習室の開放**及び個別指導、**図書館学習室の利用者**の増加など、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成するよう努めたが、どちらも結果が伴わなかった。2年生の国語については、+0.07pと大阪府平均に近付く結果となり、読解力向上の取り組みの成果が少しずつ表れてきた。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は35.5%で前年度を大きく上回った。
- ・C-NETを活用した授業だけでなく、スピーキングの練習として帶学習で会話練習を実施し、英語力の上昇に努めた。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について「1時間以上」と回答した生徒の割合は平日60.7%、休日50.0%であり、休日の割合が前年度を大きく上回った。
- ・昨年度の課題であった2年生の休日における家庭学習の時間も増えており、各教科から出される日々の課題や進路を意識したキャリア教育が休日における家庭学習を推進していると考えられる。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・総合的読解力育成カリキュラムを通じたリベラルアーツ教育や課題解決型学習を通して、コミュニケーション活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成していく必要がある。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の大阪府平均との差について、来年度も、**夏季休業期間中における補充学習の実施、図書館学習室の利用推進、総合を教科に振り替えていく**必要がある。さらに、**今年度取り組んだ読解力向上に向けた朝学習の時間を継続していきたい**。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・4技能の向上に向けて、C-NETとの連携をさらに深め、より英語力が身につく授業研究の必要がある。C-NETとの授業以外においても、**ネイティブの英語に触れる機会**を増やし、英語を身近に感じられるような工夫をしていきたい。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・中だるみの時期である第2学年においての家庭学習の充実だけでなく、第1学年からの家庭学習の習慣をつけ、継続することを目的とした課題設定が必要である。定期テスト前に限らず、**日々の課題としてオンライン学習ツールやワークを活用**し、家庭学習の充実につなげていく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、<u>3種目を大阪市平均以上</u>にする。 (前年度 1種目) 年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日頃の体育の授業や部活動での成果を發揮する場としての位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、<u>3種目を大阪市平均以上</u>にする。 年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な教科や総合的な学習、特別活動等を通じて健康に関する指導を実施する。 今後も感染症の予防のために日常的な健康指導を実施する。また、薬物乱用防止、環境問題などの課題について、正しい知識を身につける取組をおこなう。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「自分の健康に気をつけている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災活動や避難訓練、救命救急講習などを通して、自助・共助・公助を理解し、日常の備えや的確な判断のもと行動できる態度を育成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「命や人権の大切さについて考えることができている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 	A

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・生活委員会で、**健康的な生活習慣の意識づけ**を目的とした活動を積極的に行い、生徒一人ひとりが健康に気をつけるように取り組む。
- ・生徒に健康の大切さを身につけさせるために「保健だより」「食育だより」「給食だより」などの資料を定期的に発行し健康意識を向上させる。
- ・食に関する知識を身につけさせるため、**学校給食を生きた教材**とし、各教科の関連する教材と連動した指導をおこなう。

A

指標

- ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査において3項目以上大阪市平均を上回る」という目標においては、**男子の「上体起こし」**が大阪市平均 26.42、学校平均 30.52 と達成できたが、その他の項目は達成できなかった。運動に対する日頃からの意識づけをしていく必要がある。
- ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は **52.2%** だったので 50% 以上という目標は達成できた。運動につながるそれぞれの取り組みを単発で終わらせる事なく統計立てて行った結果であると考える。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・年度末の校内調査における、「自分の健康に気をつけてている」において肯定的な回答が **84.3%** となった。これは前年度より 0.1 ポイント高く目標を達成したことになる。
- ・毎年、**薬物乱用予防教室**や**いのちの講習会**を実施できていることによる成果が見られた。

取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・年度末の校内調査における、「命や人権の大切さについて考えることができている」において肯定的な回答 **99.4%** となった。これは前年度より 2.7 ポイント高く、**大きく目標を達成**したことになる。
- ・**2回の避難訓練**で消防士から講話をいただいたことや、生徒を対象とした**救命救急講習会**を実施したことが結果に反映していると考える。

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合が **89.3%** となり、**目標を大きく上回った**。
- ・食物アレルギー教員研修（4月）、2年生食育セミナー「運動と水分補給」（7月）、1年生食育セミナー「運動と食事」（9月）、3年生栄養教諭を招いての食育講座（1月）と、多岐に渡り「食」や生活習慣の大切さを意識できたからと考える。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】

- ・唯一達成できたのは「上体起こし」だったので、その柔軟性を基盤としながら、授業や体育的行事を軸として体力を向上させられるよう取り組み、意識づけをおこない心身共に成長させていく。来年度は1つでも多くの項目で大阪市の平均を上回れるようにする。

取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】

- ・引き続き、各教科や総合的な学習、特別活動等を通じて健康に関する指導を実施する。
- ・日常的に継続できる健康指導を工夫していく必要がある。

取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】

- ・命を守る部分では救命救急講習会の生徒向けをよりたくさんの生徒に経験させることができるように拡大していき、教師側は2年に一度必ず実施する。
- ・避難訓練に関しては出火場所を変更して避難経路を再確認したり、水消火器などを使った体験的実技やその時代に見合った内容を消防署に協力してもらいながら考えていく。

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】

- ・各講習は各学年にふさわしい時期や内容を検討しつつ、実施していく。
安心・安全な給食運営のため、給食時のエプロン・三角巾の着用を徹底していく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。 ICT機器の整備と効率的な運用を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革大正中央2023」を引き続き実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」において、最も肯定的な回答を前年度以上する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合は87.5%だった。 ・各教科の授業や総合的な学習の時間の取り組みで活用するだけでなく、長期休業中にICT機器を活用した課題の設定、進路学習でICT機器を活用するなどしていることが目標達成につながったと考えられる。 	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の「働き方改革2023」をもとに、教職員研修を行った。また、定時退勤申告制度を設け、教職員が気にせず帰りやすい環境を作った。 ・ほとんどの教職員が、<u>年次有給休暇を10日以上取得</u>することができた。 	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」において、最も肯定的な回答は46.6%（肯定回答94.4%）と、昨年度を1.1ポイント上回った。 ・保護者への連絡、学年通信等を「ミマモルメ」の連絡機能で配信することにより、ペーパーレス化が進んでいる。 ・日々の教育活動を学校ホームページで発信することができた。 	
次年度への改善点	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、長期休業中の課題や各教科の授業、総合的な学習の時間で活用していく。 ・次年度は研究授業（相互授業参観）のテーマが「学習者用端末を活用した授業及び家庭学習の研究」だけではなくなるため、ICT機器や学習者用端末を活用するための研修など教員の授業力向上の場を設けたい。 	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より改革を進めてきた結果、教職員の超過勤務時間の削減に大きく取り組むことができた。また、定時退勤申告制度や研修会を実施することで、教職員の意識の改革も行うことができた。次年度も引き続き学期末懇談会の廃止等、新たな改革に取り組んでいく。 	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの回収率が68.8%と低く、ICTを活用したオンラインアンケートにおいては、さらに回答率が低くなる状況がある。 ・保護者の方々に学校教育に关心を持っていただるために、授業参観や各行事等を見直し、気軽に保護者が参観できるような環境づくりを進めていく。 	